

BDFを使って野外イベントを実施し、CO₂の削減に貢献しようという考え方が注目されています。「バイオマスライブ」を提唱・推進するバイオマスライブ北海道実行委員長 梅津一孝さんにお話を伺いました。



バイオマスライブ北海道
実行委員長
梅津 一孝さん

地球温暖化は世界の大きな環境課題となっていますが、北海道においては今回のサミット開催を契機に、環境への関心が高まっています。

「地球温暖化」や「二酸化炭素削減」などの単語は徐々に浸透してきていますが、実際にどんな行動をとったら良いのかわからないことも多いのではないのでしょうか。そこで私たちは、身近なところに広く分布している「バイオマス」資源を、皆様の協力により、効率的に集めて活用しようと考えました。

若い人からお年寄りにまで親しみのある「音楽」を通して環境活動に取り組もうと、「バイオマスライブ」構想を数年来練り、このたび「バイオマスライブ北海道実行委員会」を設立しました。野外における音楽イベントの多くは、発電機によって電源供給を行っているものが多く、その燃料には軽油が使用されています。燃料として使われるこの化石燃料（軽油）をバイオディーゼル燃料（BDF）に置き換えることでCO₂削減を図ることが可能になると考えたわけです。

天ぷら油などの植物性油脂は、植物が成長過程でCO₂を吸収しているので、燃焼してCO₂を排出してもプラスマイナスゼロになるというカーボンオフセットの考え方です。BDF事業は、既に多くの自治体や企業が取り組み始めていますが、まだまだ廃棄されている廃食用油が多いのが実態です。「音楽」というメッセージ性の高い媒体を通して、廃食用油の回収・リサイクルを促進したいと考えました。

「バイオマスライブ」は、家畜ふん尿が多いところではメタンガスを利用したり、森林が多い場所でのイベントは木質ペレットを使用するなど、様々な形態のバイオマス利用が可能です。つまりバイオマスエネルギーも「地産地消」が理想なのです。さまざまな機会を利用しながら、「廃食用油が音楽イベントのエネルギーになる」というアピールをしながら、廃食用油等バイオマスの利用と年代を問わず楽しんでいる音楽を通して、リサイクルがムーブメントになってくれること願ってやみません。

●バイオマスライブ推進のしくみ●



梅津 一孝（うめつ・かずたか）
NPOコミュニティ・シンクタンクあうるず代表理事。帯広畜産大学大学院教授。農学博士。バイオガスパラントによる家畜ふん尿の有効利用など、循環型農業を専門に研究。旭川市生まれ。

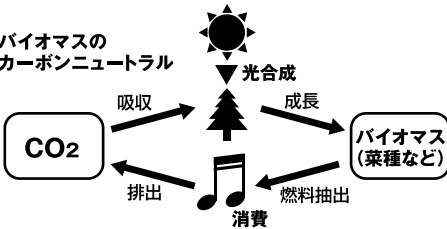
「バイオマスでCO₂削減」をムーブメントに

BDFって？

バイオディーゼル燃料（BDF）は、家庭などで使い終わった天ぷら油など、植物性食用油の廃油を精製し、燃料として利用できるようにしたものです。精製の過程を簡単に説明すると、廃食用油にメタノールを加えると脂肪酸とメタノールが反応し、バイオディーゼル燃料（メチルエステル）ができあがる仕組みです。

地球に優しいBDF

BDFの原料・植物は、成長の過程で地球温暖化のもとになるCO₂を吸収しているため、燃焼しても大気に放たれるCO₂の総量は変わりません。つまりプラスマイナス・ゼロということになり、実質的にはCO₂の抑制効果につながるというわけです。これを「カーボンニュートラル」といいます。



BDFの回収状況

「廃食用油」はレストランなどの飲食店や食品工場から出される「事業系廃食用油」と、家庭の使用済み天ぷら油などの「家庭用廃食用油」があります。

日本では年間約250万トンの食用油が消費され、約60万トンの廃食用油が発生しているといわれています。このうち未回収分はおおよそ35万トンにもなります。なかでも年間約25万トンに上るとみられる「家庭用廃食用油」は、ほとんど回収できていないのが実情です。

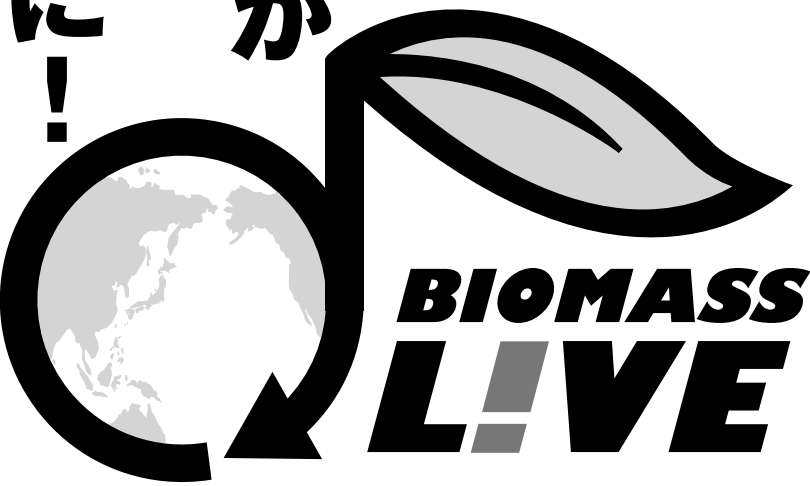
3%に満たない回収量

レストラン「びっくりドンキー」などを経営する株式会社アレフのエコプロジェクト室長、嶋貴久雄さんのお話では、石狩管内だけで1日当たり推計5千リットル前後の廃食用油が発生する一方、廃食用油の回収に取り組む自治体や企業などに回収される量は、1日当たり130リットル前後だといいます。BDFにすれば、1日当たり約12トンものCO₂削減が可能なる量の廃食用油が、ただ捨てられ続けていることになります。回収が進み、化石燃料に代わる燃料として利用されると素敵だと思いませんか。

使用済み

ライブ会場のエネルギー源に！

天ぷら油が



原油価格が急騰するなか、今、あらためて「バイオマス」*が注目されています。

道内では、「バイオディーゼル燃料（BDF）」を使った野外ライブを通して、

二酸化炭素（CO₂）の削減と環境保全を呼び掛ける取り組みも始まろうとしています。

ここでは、そうした動きをご紹介します。

*エネルギー源として再利用できる植物から生まれた有機性資源。

バイオエタノール、バイオガス、バイオディーゼル燃料（BDF）、木質ペレットなどがある。

新エネ
王国
北海道
NEW ENERGY LAND HOKKAIDO



バイオマス

注目のバイオマスBDF

バイオディーゼル燃料